

第三者意見

株式会社 環境経済研究所 所長
CEAR環境主任審査員
松田 布佐子氏



2009年、創立75周年を迎えられました。巻頭のトップコミットメントでは引き続き、「確かなものづくり」と「地球温暖化防止」を経営の大きなテーマとして取り上げ、これらの実現に向けてCSR活動をさらに推し進めていくとの水島社長の強い決意が述べられています。道路建設などの事業活動は公共的側面が強いことから、社会へ与える影響は大きく、法令遵守、品質保証、安全管理、環境保全など全ての点で確実に実践していかなければなりません。社会から信頼される企業として、これからの舵取りに大いに期待したいと思います。

「確かなものづくり」では、2008年よりさらにコンプライアンスや品質保証の体制を強化した点が注目されます。本業である道路舗装事業の地域組織(支店や営業所、地区総合事務所)を統合した「統括事業所」を新設され、出張所や合材工場をその指揮下に置き、事業の一体化を図っています。連携研修や統括事業所会議の実施などで情報の共有化や問題・課題の対策、指示命令システムの明確化などを図る取り組みは、「不祥事や事故を繰り返さない」といった強い意志が感じられます。また改善提案発表会や本社による工事施工監査などの取り組みも評価できます。今後は、それぞれの実施回数の報告だけでなく、研修や会議出席者の意見をはじめ、改善提案や監査結果など、具体的な事例を紹介されるとよいでしょう。

安全管理では、災害件数が過去5年のなかで2008年

度が最も多かったという報告があります。事故の類別や処置については傾向分析を含め詳細に記載されていますが、真の原因についてはよくわかりません。現場のコミュニケーション不足なのか、職長・安全衛生責任者の問題か、現場作業員の技術力不足なのか、もう少し知りたいところです。真の原因分析が有効な予防処置につながる点からも、ぜひ、社内で議論した内容を示してください。

環境に配慮した材料や製品、工法などの技術開発では、世界道路功績賞を受賞した遮熱性舗装やリサイクルゴム利用の人工芝基盤緩衝層、中温化技術などを詳しく紹介しており、地球温暖化防止につながる点などよく理解できました。なお、CO₂排出量削減の取り組みでは、事業部ごとに排出量の実績を把握していますが、今後は資材調達から製造、工事、リサイクルなど、ライフサイクルごとにCO₂排出量をとらえていくことを薦めます。

今回のレポート全体を通じて良かった点は、情報発信が進んだことです。2008年の報告書での意見やコメントを踏まえ、例えば、専門用語の説明を欄外に設けてわかりやすくしたり、ページ下の「アンケート」欄に従業員や取引先、近隣住民からの意見を載せて、読む人の「顔」を見えるようにするなど、工夫が随所に見られ、より親しみやすくなったような気がします。発信側と受信側の双方向のコミュニケーションを今後もさらに推し進め、CSR活動の改善にぜひつなげてください。

ご意見をいただいて



CSRレポート編集責任者
環境安全部長
吉塚 龍吉

松田様には、過大な評価と貴重なご意見をお寄せいただきまして厚くお礼申し上げます。

当社は、社会から信頼される会社になるために、企業理念である「確かなものづくり」の実現を目指してCSR活動に取り組んでいます。また、その内容を本CSRレポートを通して皆様に報告させていた

だいております。限られた紙幅の中で、当社の多岐にわたる事業活動をご紹介するため、毎年、報告方法や内容の見直しをしております。

CSR活動を経営の柱に据えてから5年目となり、「企業行動5つの誓い」の唱和の定着を含め、従業員の意識にも明らかに変化が感じられるようになりました。今後は、皆様のご意見をふまえてCSR活動をより一層充実したものにしたいと考えております。